

地方 紀行 民鉄

弘南鉄道株式会社 大鰐線



まだ花芽の硬いリンゴに、
開花の遅れた桜。
1輪2輪、咲きほころんだ
桜の花に春の気配を
捕まえる。

静

かな駅舎に人待ち顔のタクシー、低く飛び交うツバメに桃色のワニ。そう、ピースサインをした桃色のワニが利用者を出迎えてくれる、ここは弘南鉄道大鰐線の終着駅「大鰐」。さくらまつり真つ只中の弘前公園に向かうため、訳あって今回は終着駅から出発。

途中下車して春探し

関東より一足も二足も春の遅い青森。とはいえ、すでにゴールデンウィーク。雪をかき分けて進むラッセル車が印象的な弘南鉄道沿線にも、春の気配はそこにある。途中下車を楽しむので、買うのは一日乗り降り自由の「大黒様きつぷ」。鉄道ファンのホームページで見つけた奥羽本線と立体交差する陸橋や、景色のきれいな場所が見たいと駅員さんに相談し、ひとまず義塾高校前駅を目指す。

車内には2〜3人の乗客。座席に座って、ふと上を見ると、つり革の赤い輪には緑色の三角形。さすが青森、こんなところもリンゴをモチーフにしているのかとさらに見ると、「109」「東横のれん街」などの文字。どこかで見たことのあるような車体だと思っていたら、かつて東京・渋谷を走っていたらしい。電車の人生(?)が、そのまま残されているように面白。きよらきよらと車内を見回しているうちに、義塾高校前駅に到着。

ホームに降りると、運転席の窓が開き、「立体交差は、そこを真っ直ぐ。コの字を書くように下って行けば着きますから」とありがたい道案内。先ほど相談した駅員さんは

運転手さんだったらいい。お礼を言って一歩踏み出すと、「あつ、出口はこっち」と、もう一言。優しい運転手さんを見送って、教えられた道を歩き出す。

リンゴの木々は前衛舞踊家?

奥羽本線の上に弘南鉄道の陸橋がかかる。弘南鉄道と奥羽本線の立体交差点は、義塾高校前駅に程近く、迷う間もなくたどり着く。どちらかの電車が通るのを待とつかとも思っただけで、時刻表を確かめて断念。弘南鉄道の線路を右手に、隣駅の「石川」を目指す。

満開の木蓮に散り始めの桃……住宅街に花を探しながら進むと、大きな川に行き当たる。河川敷や土手を覆うのは、枯れ草と緑の芝が半々だけれど、ちらほら見える黄色い花の分だけ春の気配が優勢。川に架かった赤銅色の橋梁を2両編成の電車がゴトゴトと音を立てて渡って行く。川面に光が反射して、柔らかに霞んだような何とものんびりした景色だ。

電車の通り過ぎた橋梁をくぐって、土手を上ると、眼下には二面のリンゴ畑。広がるリンゴ畑の縁に沿うように進む電車は、季節になれば白いリンゴの花霞の中を走って行くように見えるはず。

弘南鉄道沿線の随所に見られるというその華やかな光景も、季節にならない今はまだ、想像するしかないけれど、枝ばかりのリンゴ畑も面白さでは負けていない。背の低い木々がうねるように枝を伸ばす姿は、腰を落とし腕をくねらせて踊る、前衛舞踊の群舞のよう。

弘南鉄道

【こうなんてつどう】

弘前駅を始発駅とする弘南線と、中央弘前駅を始発駅とする大鰐線の2路線がある。駅数は26駅で、旅客営業キロは30.7km。「弘前学院大前」や「聖愛中高前」「柏農高校前」など、学校名を冠した駅が多く、通学利用が7割に上る。



大鰐駅のシンボルはピースサインの桃色のワニ。



葉っぱの三角形は岩木山を模しているとか。



リンゴの花の開花は、桜の少し後になる。



陽射しに霞む景色は春の気配。



陸橋の上を通るのが弘南鉄道、下をくぐるのが奥羽本線。

夜中に見たら怖そっただけで、陽射しの下では自由を謳歌しているみたい。

土手から続く道は、いつの間にか両側をリンゴ畑に挟まれ、線路は畑の向こう側。線路の方へ近づこうにも、畑を横切るわけにはいかないし、そもそも駅の場所が分からない。来た道を戻ればいいのだけれど、少し面倒。最後の手段で、リンゴ畑の人影に向け、「すみません、ここから一番近い駅はどこですか？」と大声を張り上げる。

「この道真っ直ぐ。突き当たりを左へ行くと着きますよ!」。また親切な道案内をいただいて、たどり着いた駅は「石川プール前」。この時点で石川駅を通り過ぎたか分からないけれど、ホッと一息。待つことしばしでやって来た電車に乗り込み、一路、中央弘前駅へ。

花の寂しさ、人の賑わい

「はくらまつりに行かれる方、これをどうぞ」。中央弘前駅で降りた乗客に配られる紙片、これが終着駅から出発した「訳」。これがあると、さくらまつりの会場、弘前公園の有料区域へも無料で入れる。さっそく向かう弘前公園は、中央弘前駅から歩いて約20分。

陽が暮れ始めた街は空気が冷たい。駅近くの土淵川沿いの桜はまだ咲いていなかったし、なんだか寒くなってきた。はたして公園の桜は……予感の中、公園を囲むお塚の桜はあともう一息。赤く膨らんだ花芽のせいで枝全体が薄赤く見え、近づけばほんの少し咲いている、といった具合。園内に入っても桜の様子に大差は

なく、本来ならばこの時期、桜の花陰に浮かび上がる弘前城の天守閣が、寂しいほどにくっきり見える。

「今年は開花が遅いのね」「あつあつこ、咲いてる!」。少ない花を補うように、花見客の賑やかな声が園内を彩る。周囲より一足早く咲きほころんだ一枝はまるでアイドル。無数の視線とカメラを独占している。

賑やか華やか、もう十分

観光らしい集団からは「残念」「残念と、しきりに聞こえてくるけれど、そっ言う顔をちらりと見ると、それほど残念そうでもない。花を追い、そぞろ歩く人の流れに従って進んでいくと、人が増え、賑やかさが増していく。

なるほど、皆さん花より団子。目の前にはずらりと並んだ屋台に群がる人、人、人。好みの食べ物を手にした人は、より一層楽しげに「残念」と、桜を見上げる。屋台近くの広場には、咲いていない桜の下に、次々とピクニックシートが広がり、夜の宴会準備が着々と進められている。

これから天気は下り坂。明日の予報は曇り時々雨だとか。視線を集める今日のアイドルたちには、冷たい花散らしの雨になるかもしれない。そんなことを知ってか知らずか、少ない花を見上げる顔は、満足そうに楽しそう。

満開の桜の景色を期待していたのは事実だけれど、これはこれで十分賑やか、十分華やか。今日一日で春を満喫した気分。なんだか幸せ、もう十分。



咲いた桜は大人気。



ソースの匂いに人が集まる。



咲いているのは1輪2輪。